



吉場 道雄 議員

ボランティアだけでまもれるのかな

問 彩の国みどりの基金事業で里地・里山の平地林を再生しているが。

答 環境農政課長 事業の目的として里山平地林を再生し景観の向上や生物多様性の保全など森林の持つ公益的機能の発揮が求められております。事業は平成20年度より県の事業として実施され平成27年度まで75・45ha整備してきました。

問 平成29年から町の事業となるが、一人暮らしや高齢者が多く管理は難しいと思う

答 環境農政課長 地域でボランティアにお願ひしたい。

企業誘致の進捗は

問 花見台工業団地の拡張部分はオーダーメイド型工業団地と聞かぬか。

答 企業支援課長 県企業局の意向で「エントリー&オーダーメイド」方式による産業団地整備として、造成工事の設計段階から立地希望企業の募集を開始して、区画の形態や造成予定面積のオーダーに対応していく。立地予定企業の建物配置や駐車場配置などを事前に考慮した面積

配分も可能になり、立地予定企業では、造成中に建築等の設計に着手が出来るために、早期な稼働が可能となる。

規模・スケジュー

問 規模・スケジュー

答 企業支援課長 平成30年度当初予算主要施策では、施行面積約9・3ha、分譲面積約6・5haとなっており、平成30年度に実施設計、環境調査、開発協議、用地買収を行い、平成30年度末から平成31、32年度と造成工事等を実施する予定となっております。なお分譲価格については、今後必要な手続きを経て決定される。



事業を行ったが、管理出来た所（右側）、管理出来なかった所（左側）

**里地・里山の管理は難しいが
答 ボランティアにお願ひしたい**



渋谷登美子 議員

各学校でやれば参加する子どもが増えるか...

問 子どもの経済的格差が広がっている。現状は。

答 教育総務課長 要保護・準要保護児童生徒数は菅谷小57名、七郷小6名、志賀小21名、菅谷中45名、玉ノ岡中19名。

問 図書館で開催された学習支援教室の子どもへの効果は。

答 教育総務課長 学習支援事業は子どもの貧困対策の事業ではないが、小学生は要保護・準要保護児童6名、中学生は要保護・

**学習支援教室・格差への効果は
答 基礎学力はあがった！**

準要保護生徒3名が参加。

アンケートでは、「学校の授業がわかるようになった」「学習習慣が身についた」という評価である。要保護・準要保護児童生徒は基礎学力向上につながり、子どもの貧困に対する効果はあった。

問 保護者が図書館に連れてこれる子どもは参加できるか。

答 教育総務課長 次期募集の時、参加しない理由をアンケートで聞いて検討する。

紙おむつ・分別収集を

問 これから増加する紙おむつの分別収

集を行いリサイクルして、焼却ゴミの削減を。

答 環境農政課長 現在の処分方法は焼却である。衛生面よりリサイクルが進んでいない。調査検討をする。

問 ユニ・チャームが紙おむつのリサイクルを始め、ネットワークを始めていきたいという。日本の一人当たりのゴミ処理費は1万4400円、生ごみ・

紙おむつの資源化を行っている鹿児島市は8、117円、志布志市は8、084円。嵐山町独自でも収集体制をつくり対応を。

答 町長 今、安全にやっているので調査検討する。



「わかった人、手をあげてね」図書館での学習支援教室＝H30. 2. 17